

「被災車いす」の再生に7県の校が挑戦！

世田谷泉高校（東京）、島田工業高校（静岡）、科学技術高校（神戸）、倉吉総合産業高校（鳥取）、真岡工業高校（栃木）、新潟東工業高校、福島工業高校、新潟医療福祉大学、神奈川工科大学

復興の兆しが見えない

震災から4ヶ月が過ぎた7月23日、神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）のメンバー7人は、大館工業高校、秋田工業高校、大曲工業高校（秋田県）、島田工業高校（静岡県）で整備された車いす6台を宮城県の特養仁風園（石巻市）と町立女川病院（女川町）に届けるため、初めて津波被災地を訪ねた。

23日は仁風園で車いす20台のタイヤ交換などを行い、午後、女川病院のある鷺神浜地区に向かった。途中目にしたのは、道路や木造家屋の



ビルが横倒しになり、鉄骨の残骸だけの女川町鷺神浜地区（高台の病院裏から撮影）

瓦礫は撤去されているが、むき出しの鉄骨などは手付かずで放置されたままの無人の街並。女川病院は市街地が一望できる高台にある。そこから眺めると、時々瓦礫撤去の大型トラックが砂ぼこりを舞上げ行き交うだけで、復興の兆しは感じられない。市街地に立ったメンバーの一人は「怖い」と感想を漏らし、津波を「現実」として受け止めていた。

津波に耐えた車いす、捨てられない

病院裏に泥のついた車いすが置かれていたのを見て、「高台の病院の1階まで津波が押し寄せ、駐車場の車は海に流された。この車いすは海水と泥に浸かったので廃棄するしかない」とのこと。この話を聞いてメンバーの誰もが「自分たちの出番!」と思ったが、修理は手に負えない?と不安も脳裏を横切り、その場で整備の申し出はできなかった。でもあの車いすを見て、そのまま見過ごすこともできないという気持ちも強く、3日後病院に整備を申し出た。KWR 副代表の中西祐輝君はメンバーの迷った気持ちを次のように語った。

「海水と泥をかぶった車いすの再生は相当難しく、時間もかかる。理由として、まず、鉄製品は水分や塩分を極端に嫌う為、再生出来ても長く使うには不安が残る。シートも張り替えなど



廃材置き場にあった津波で泥を被った18台の車いす

何らかの対策が必要。そして冠水だけならパーツを交換すればよいが、フレーム部に歪みが生じていたら手に負えません。しかしこれらの理由で、できない、難しいから捨てるのでは『空飛ぶ車いす』の主旨に反する。できないからやるものだと思います。あの車いすが修理出来れば、きつとどんな車いすでも直す事ができるし、あの車いすが救われる事で、今後救われる車いすが増えると思います」

そしてKWRはこの検討結果を添えて工業高校にも呼びかけたところ、島田工業高校、科学技術高校、世田谷泉高校、倉吉総合産業高校、真岡工業高校、新潟東工業高校、福島工業高校、新潟医療福祉大学が応じた。

7月29日に病院から18台が集荷され、8月4日までには各校に届いた。何台が女川町に帰るか?工業高校生らの技術に期待がかかる。 **W**

新毎日

2011年(平成23年)7月26日(火) 夕刊 3版 社会

被災地へ中古車椅子 息長い支援 整備も入念

36工業高・大学

全国36の工業高校や大学が、中古の車椅子を整備して東日本震災の被災地に送り続けている。これまでに計205台を要請があった自治体や施設、団体に寄贈した。元々は車椅子が普及していない



各地から集まった中古車椅子が安全に使えるかどうか、入念にチェックする学生たち。神奈川工科大学の神奈川工科大学

アジア各国向けのボランティアだが、関係者は「被災地にもニーズがある」と息の長い支援を目指している。36校はボランティア事業「空飛ぶ車いす」に参加する学校で、私立大森学園高（東京都大田区）、静岡県立掛川工業高（掛川市）、神戸市立科学技術高（神戸市中央区）など

のほか、被災地の福島県立福島工業高（福島市）も含まれる。各校は日ごろから高齢者施設などで不要な車椅子を譲り受けて整備し、パンクしないタイヤに付け替え、アジア各国に送ってきた。04年の新潟県中越地震、スマトラ沖大地震では被災地にも届けた。東日本大震災では3

月下旬以降、要請のあった自治体や高齢者施設、避難所に送っている。神奈川工科大（神奈川県厚木市）の車椅子修理サークル「KWR修理屋」は週2回、メンバーが全国の参加校から集まった車椅子を、整備漏れがないか入念にチェックする。副代表の中西祐輝さん（21）は「被災地では車椅子がまだ足りない。できる限りのことをしたい」。23日にはアフターケアのため、宮城県石巻市と女川町を訪問した。

活動のコーディネーターにあたる財団法人日本社会福祉弘済会はタイヤ交換の費用として、書き損じたはがきの寄付を募っている。送付先は〒13000022 東京都墨田区江東橋4の24の3。車椅子の要請や問い合わせは03・3846・2172。

【斎藤拓、写真も】



4ヶ月経っても復興の兆しはみられない



病院に届けられた車いす

「空飛ぶ車いす」応援メッセージ

本会では修理はできなくても、だれでも車いすによる東日本大震災復興支援に参加していただくために、ノーパンクタイヤ購入に活用する「書き損じはがき」の収集を呼びかけています。この高校生を応援する呼びかけは、NHK、共同通信、産経新聞、毎日新聞などで報道され、本会にはすでに約2万枚のはがきが寄せられています。ご参加いただきました皆様にご挨拶いたします。

また、はがきと一緒に多くの方から復興支援に取り組み高校生に応援メッセージが寄せられていますので、以下紹介いたします。(敬称略)

唐牛法子・青森県

去る三月十一日の想像を逸する東日本大震災の余震と原発事故の事で、毎日、新聞テレビに釘付けになっていきます。先日東奥日報で全国的に工業高校の生徒さん等が被災地・者の為に御奉仕なさっている活動を知り感銘いたしました。現在私は高血圧と膝腰痛のため通院し、ヘルパーさんのお世話になってる身で、被災地の方々のことを思うとき、胸が一杯で案じているのみで、何のお手伝いもできない自分が歯がゆくなり、精々病院に行つた都度受付においてある義援募金箱に気持ちを入れさせていたお礼です。

車いすが必要なくらしでした。若い人たちのこのような活動はすばらしい事と応援いたします。

入江晶子・埼玉県

NHKデータ情報を見ました。私にも車いすを利用している兄がいるので、不自由さはよく分かります。この葉書は、私自身が昨年末から急に肺炎になって年賀状が出せずまじまじになったものです。なかなか手助けできなかったのですがこの葉書で被災された方々の役に立てていただけると幸いです。

被災地へ車いすを送る高校生を応援させていただきます。一台でも多く被災地の方へと心より願っております。

宮久地サカエ・埼玉県

車椅子を被災地の皆様に送られるボランティアはほんとうに良いお気付をされたと感じました。生徒さんが協力して修理されている姿を思うと

被災地へ車いすを送る高校生を応援させていただきます。一台でも多く被災地の方へと心より願っております。

相坂泰子・青森県

ハガキの使い道ができて嬉しく思っております。実母も一昨年の八月迄

被災地へ車いすを送る高校生を応援させていただきます。一台でも多く被災地の方へと心より願っております。

星野宏・東京都

同封のハガキは、父が長い間仕事や年頭のご挨拶等に使用していた物の残

被災地へ車いすを送る高校生を応援させていただきます。一台でも多く被災地の方へと心より願っております。

「高校生のみなさんと、あひだユニバースもね。私も参加しますね。」

りです。困らされている沢山の皆様の元に、少しでも多くの車いすをお届け出来ますように。

大木濱子・東京都

私も車いすを押す一人です。母親が外に出ると多くの方に会い出来るのを楽しみにしております。震災を受けた方がお元気になられる事を祈り申し上げます。

荘司紀子・東京都

「空とぶ車いす」については、テレビ報道などで知っています。素晴らしい活動だと思えます。もし、他の方法でも支援することができれば是非協力させていただきます(募金や賛助会員など)。

近藤純子・東京都

「震災助け合い情報」で活動を知り感激いたしました。私も父が使用していた車いすを送らせて頂きました。皆様のお力添えで被災者の方にお役立ててください。

城川京子・東京都

ハガキ同封いたしました。和紙少々ありましたので勝手に折り鶴同封いたしました。作業中にも見守ってくださいますように。

加藤敬子・東京都

先日「空とぶ車いす」を初めて知りました。若い高校生の方々がその技術を發揮して人々の力になっておられることとても力強く感じました。今後とも海外に旅行するときもお役に立て

若者の力強さ、たのもしいかぎりです。年輩の私、何の手助けも出来ず情けない思いで過していたところNHKではがきのことを知り、これなら私もお役に立てると思えました。

内山強・埼玉県

家の中のものが倒れたりしたのですがとても怖くて、今でも思い出すと涙が出てきます。被災地の人の気持ちを考えると胸がしめつけられる思いです。私たち一人ひとりの微力が大きな力になりますように。

平塚宏幸・茨城県

先日、ラジオで産経新聞の「空とぶ車いす」の記事が紹介され、とても感銘をうけました。整備をされている工業高校生の皆さんに「ご苦労さま。がんばってね。」とお伝えいただけると幸いです。

野澤千鶴子・千葉県

車いすを修理して送って下さっている皆様、ありがとうございます。我家のハガキ全部お送りします。

池上多津子・千葉県

若い皆様の活動に心よりお礼申し上げます。年輩の私達ですが、何か出来ることがありましたらご連絡下さい。

市川洋子・千葉県

高校生が被災地に車いすを送る活動をしているとのこと、たいへんうれしく思いました。若い世代の方々の

ることになったそうです。新宿区からも多くの方たちが協力して下さい。ことを祈っております。協力の輪が一層広がることを祈りいたします。

沼田和恵・神奈川県

産経新聞の記事を読みました。私の九十一才の母も昨年、脳梗塞になりましたがハビリのお陰で、右半身麻痺の体ながら、老人ホームで左手で車いすを操作し、元気に過しております。そして皆さんのボランティアを知り、感動致しました。車いすによって、不自由な体でも普通の生活に近い状況を保つことが出来ます。

菅谷幸子・神奈川県

いろいろな支援の輪が広がりに被災地に心からの笑顔が一日でも早く増えますように！皆様もどうぞお体大切に下さいますように。

奥村理絵・神奈川県

微力ですが、みなさんの力になれたら幸いです。知り合いにも声を掛けようと思えます。

大塚智子・神奈川県

皆様の専門を生かしたすばらしい活動をこれからも頑張ってください。

長崎千恵・神奈川県

NHKで目にしました。家の中の片付けをしていて見つけた書き損じのハガキ：これが車いすの部品代にあてられたらと思います。有効活用できると思います。少しづつとたまっていった葉書です。少し

活動は、被災された方だけでなく、私たち大人にも勇気と元気を与えてくれます。私もがんばります。

藤野修子・東京都

NHKで知りました。少しですが、お役に立てれば。一日も早く皆が安心して暮らせますように。

田嶋澄子・東京都

家で母、主人が使用していた車いす、被災者の所(双葉町)に届けさせていただきます。

大川恭代・東京都

車椅子は、必要としている人には本当にありがたい物です。被災地の方々のために、どうぞ頑張ってください。

加藤順子・東京都

テレビで活動を知り、HPを拝見いたしました。日頃から書き損じの多い私ハガキ達に、日の目を見せてあげられることに喜びを感じます上に、さらにこの度の震災被災者の方々の役に立てて頂けるとのことで、こんなよい事はない、との思いでいっぱいです。私には、特別な技術があるわけではないので、こうした事で、様々な方向から、又自分の生活の中で、お役に立つことができるというのは嬉しいです。

星野宏・東京都

同封のハガキは、父が長い間仕事や年頭のご挨拶等に使用していた物の残

でも部品の足しになるのならこちらもとてもありがたいことです。一人一人は小さくても輪が広がること

小泉・神奈川県

昨年、家族が骨折し車いすのお世話になりました。同時に車いすが生活に欠かせない方々とも友人となりメンテナンスの大切さを知りました。葉書は少しですがネジの一本にでもなればと思えます。

井口早苗・山梨県

先日、テレビで工業高校の生徒さんが、車いすの修理をしていると言う話を観ました。感動しました。私の身内にも車いすの生活者がいます。生徒さん方のお手伝いが少しでも出来たらうれしいです。

青木久枝・長野県

切手は失敗した葉書の半分を替えた物です。これからは失敗の葉書あつめておきます。困っている方を喜ばせて下さい。

古橋麻子・富山県

被災地が一日も早く復興されることを願っております。

畑宏子・石川県

学生さんたちが震災被災地の方たちに車椅子を修理し寄贈するというボランティアに感銘しました。